

東京 IPO 特別コラム

2016年9月12日 Vol.47

東証1部昇格企業へのお祝いメッセージ

マザーズ市場をはじめとした新興市場にIPOした企業は事業の成長とともに上場企業として着実に社会的な信用を得るとともに更なる発展を目指して市場を東証2部、1部へと変えていくこととなります。企業経営者にとってIPOはゴールではなく事業成長のための一里塚。ビジネスモデルの安定は業績の着実な向上につながり、東証2部、1部市場への上場前の東京証券取引所の審査にも耐えられる業績や資産内容、株主構成、いろいろな上場基準を満たした企業として上場が認められるのであり、その結果として企業の社会的な信用、とりわけ取引先との信用力向上、さらには経営陣、従業員のステータス向上、株主、投資家からの信頼向上ということになって参ります。

こうしたIPO後の企業発展の道筋を長年にわたりIR支援活動で支えてきたのがフィナンテックであり、これからも多くの新興市場企業とのご縁を頂戴しながら企業の成長に関わることになると思うと、私も本コラム執筆を通じて応援する甲斐があると感じています。フィナンテックではこれまでに多くの上場企業のIR活動を支えて参りました。その中の一つにアドソル日進(3837)があります。私も同社の企業レポートを何回となく執筆させて頂き、多くの皆様にご愛読頂いたものと思いますが、先週末に東証から1部昇格の承認を得て9月16日(金)に晴れて東証1部昇格が実現することになったそうです。

同社は社会システムの根幹を支える電力や通信などインフラ系システム開発で長年の実績を持ち、多くの有力企業をクライアントとしながら今年年商100億円以上の企業に成長してきました。2007年2月にJASDAQ市場にIPOをしてからすぐにリーマンショックに見舞われ、本来の成長力はいったん停滞したようですが、2011年以降の成長はめざましく、社会インフラシステムの更新時期の到来を背景に一段の成長を見せつつあります。また、同社は長年培ってきた米国の有力セキュリティシステム企業との本格的な提携により、IoT機器向けのサイバーセキュリティシステムの有力企業としても大いに発展する可能性が見えてきた点でも注目されます。IPO後9年を経過した本年2月に東証2部に上場。そこから7か月を経て東証1部への昇格とまさにIPO後10年目にして一段と発展の道を歩もうとしています。

事業発展に尽力されてきた社長以下経営陣、従業員の皆様に本コラムを通じて心よりお祝いのメッセージを送りたいと思います。厳しい東証審査に耐えて、耐えて耐え抜き晴れの東証1部昇格。本当におめでとうございませう。同社のIR活動を長年にわたり支援してきたフィナンテックや同社を支えてきた多くの株主の皆様にとっても東証1部上場の報道は喜びもひとしおかと思ひます。新たな成長の幕開けとなる同社の今後の飛躍をさらに見守るとともに、これに続く企業の登場を心待ちにしたいと思ひます。

(東京 IPO コラムニスト 松尾範久)